

## 名古屋支部

## 施設研修会開催



9月12日（水）に名古屋支部（新美三良支部長）は名古屋港において、名古屋港管理組合の『名古屋港管理組合所有の船舶による海上からの名古屋港防災施設の見学』と、名古屋市港防災センターの『防災体験ツアー（地震・伊勢湾台風3D映像・煙避難体験）』の施設研修会を開催し、支部会員27名、協会事務局長 小坂元信氏が参加しました。

午前9時30分に名古屋港ポートビルに集合し、名古屋港管理組合の船舶「ぼーとおぶなごや2」に乗船しガーデンふ頭より出航しました。

当日は小雨模様のため船内において、名古屋港管理組合危機管理官 亀嶋隆光氏、総務部危機管理課長 佐々木浩二氏から名古屋港の防災について説明を聞きました。また船室に設置された窓からは、展示場やテーマパークのある金城ふ頭、港内最大級のコンテナターミナルがある飛島ふ頭、東南アジア向けのコンテナを扱う鍋田ふ頭を眺めることができました。名古屋港沖合に設置された高潮防潮堤は地盤沈下や液状化対策として8mの高さにかさ上げする工事が行われ、見学時はかさ上げ部分がまだ白く高さが目視確認できました。船舶は航路を整備するための浚渫工事をした土を埋めたてたポートアイランド、LNG、穀物を取り扱う北浜ふ頭、製鉄所のある元浜ふ頭、自動車の積み出し拠点の新宝ふ頭を周回し、約1時間30分の見学を終えました。

午後からは名古屋市港防災センターにて、地震体験室で東南海地震（昭和19年）で起こった震度7の揺れを50秒間体験しました。地震体験室はダ

イニングを想定した部屋が作られ、体験者は7名グループとなり、4名はテーブルを囲んで椅子に座り、3名は窓際に立ちました。揺れが始まるとテーブル周りの者は、頭を保護してテーブルの下に潜り込みテーブルの足に掴まりました。窓際の者は、その場できがみ体勢を丸めて手で頭を保護しました。揺れが収まった後は、ガスの元栓、電気のブレーカーを落とし、窓やドアを開けて出口の確保をするという初期行動を体験しました。担当者からこの装置では横揺れだけで実際は縦揺れが加わるのもっと激しいですとの説明がありました。会員からは「思ったより長く感じた。」「揺れがきつく、テーブルの脚に必死で掴まった。」との驚きの声がありました。

同施設2階では伊勢湾台風のニュース映像や写真を見て、被害の大きさについて説明を受けました。隣室には昭和30年代を模した居間があり、3D映像で伊勢湾台風、東日本大震災の津波を疑似体験しました。続いて煙避難体験室では煙が充満した部屋をハンカチで鼻口を押えながら頭を低くして迷路のような通路を通りました。

災害が起きた時には、**押さない、走らない、しゃべらない、戻らない**、の頭文字をとった「おはしも」という言葉がありますので、この言葉を守って災害から身を守ってください、と締めめの言葉を聞き研修会は終了しました。

